

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信

2018.10

Vol. 72

南東北グループ 医療法人財団 健貢会

総合東京病院通信 Vol.72

●平成30年10月発行

●編集・発行 / 総合東京病院

〒165-8906 東京都中野区江古田3-15-2

TEL. 03-3387-5421(代)

特集

肺炎になつてしまったら？
ならないためには？

総合東京病院
呼吸器内科

渡部 晃平

これから寒い季節が到来します。冬は免疫力が落ちやすく、肺炎にかかる方が非常に増えます。特に高齢者では、飲み込みの力が落ちてきやすいことから、本当なら胃に入らなければいけない食べ物や飲み物が肺に入ってしまうことで起こる、誤嚥性肺炎にも注意しなくてはなりません。

■肺炎ってどんな病気？

肺の中は細菌が少なく、比較的きれいな環境です。外から入ってきた細菌がそこで増えてしまうと肺炎になります。肺炎になってしまったら、抗菌薬といって細菌の繁殖を抑える



正常な人のレントゲン



肺炎患者のレントゲン

薬を内服しますが、重症の場合は、入院して点滴を受ける必要があります。

呼吸の苦しさがあ、全身の倦怠感が強い、喉や鼻の症状が乏しいといった場合は肺炎の可能性があります。体調が悪いと思っても、自分は大丈夫と考えて受診しない人は多いです。病院嫌いで受診せず、肺炎がかなり重症化してから受診される方がいますが、入院治療でも治らず、命を落としてしまうことがあります。レントゲン



PET-CT装置

PET-CTがんドック予約受付中

「PET-CTがんドック」 86,400円(税込)

※「脳検査」を追加の場合は、108,000円(税込)になります。

詳しくは、予防医学センターへ

☎03-3387-5462 受付時間 / 月~土(日・祝除く)
AM 9:00 ~ PM 5:00

特集 肺炎になってしまったら？ならないためには？

を1枚撮影するだけでも多くの肺炎を見つけられますから、体調がおかしい時は我慢せずに当院に受診してください。

■予防法はあるの？

肺炎に限らず、病気の予防の基本は「うがい」「手洗い」です。これからの季節、特にしっかり行ってください。肺の中で増えるのは必ずしも特殊な細菌ではなく、皮膚や口腔内に普通に存在しているものも多いです。特に誤嚥性肺炎では、口腔内が不潔な環境であることもリスク因子の1つになっているので、高齢者の口腔ケアは肺炎の予防にも有効だといえます。

肺炎の予防として、65歳以上の方には肺炎球菌ワクチンの接種が有効です。糖尿病や肺気腫、間質性肺炎などといった持病がある方は、肺炎が悪化しやすかったり、持病を悪くしたりといった影響が出ますので、



特に接種をお勧めしています。

■肺炎球菌ワクチン

このワクチンは、肺炎球菌という細菌に対しての免疫力を高めるものです。肺炎球菌はその名の通り、肺炎の原因菌として最も多いものであり、全ての肺炎の半分くらいにこの菌が関与しているとされています。ですから肺炎球菌ワクチンを接種することで、肺炎の半分が予防、もしくは重症化を防ぐことができるといえます。残念ながら、残り半分は他の菌が原因で起こり、このワクチンは効果がありません。

肺炎球菌ワクチンは現在日本で2種類あり、そしてその両方に特徴があります。自分にあった肺炎予防というのを、一度考えてみませんか。市民公開講座で、ワクチンの違い、使い分けを分かり易く説明したいと思っています。今後ワクチン接種を考えている、家族が65歳になった、という患者様は、当院呼吸器内科でお気軽にご相談ください。

